



価値を決める

東京都・中央大学高等学校 3年 小林 琴衣

私の家は農家です。そのような環境にいること、人手が足りないことも理由にありますが、お小遣いを^{もら}貰うため、働くこと自体を体験するため、つまり自分自身のためにも私は夏休みに仕事を手伝っています。何年か働いてきたなかで気づいたことがいくつかあります。大きく分けると、「自分が決める価値」と「他が決める価値」です。この2種類の価値について考えたいと思います。

私の主な仕事は枝豆を袋に入る位の適切な大きさに切ることと、切った枝豆を計量して袋に入れることです。1日に何時間も同じ作業を繰り返していると、これは私が仕上げた物である、という愛着心が徐々に減っていき、作業が雑になっていきます。そのことで先日、袋の口の接着面がきちんと貼^はられていないことを注意されました。接着面の端が貼られていない状態であると、枝豆を箱へ詰める人も、そこからそれを出す人も、のりの部分がいろんな所へ貼り付いて袋を扱いにくくなるだろうと言われ、気づきました。私が少しの労力を惜しんだばかりに枝豆の価値が下がるということです。私の失敗に気づいて気分を悪くした人がいたら、不便な形の枝豆を売りにたくない人、買いたくなくなる人がでてくるかもしれません。その小さな心の変化によって、私たち家族の家計に大きな損害が生じることになったかもしれません。ありえない可能性では絶対にはないと思います。愛着心を持って丁寧に仕事をこなすことがどんなに重要かを思い知りました。仕事の精度によって私が商品の価値を決めるのです。顔を見ることのないつながりがいくつもあることを実感し、反省しました。仕事を任せてもらえるのは誇らしいことですが、失敗は許されません。働くということは責任重大だと思いました。

どんなに自分のつくった物に愛着心があっても、それを他人が求めるよりも高く売ろうとして、それを買う人はいないでしょう。こればかりは自分では決められない、他が決める価値です。その商品の珍しさや質によって、価値は



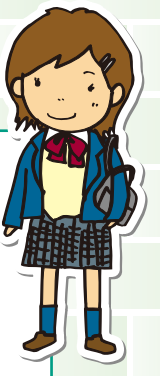


変わります。私の家族は枝豆の値段が伝えられるたび、みんなで一喜一憂していました。天候によってどれだけの作物がとれたのか、同じ品種をつくる家がかぶっていないかなどで、他の家の影響をかなり受けます。周りの状況を確認して、他よりちょっと工夫して行動しなければなりません。自分では決められない物の価値を知りました。必要とされるから、その物の価値は高くなるのだとわかりました。みんながそれぞれの価値を決めるという関係性はとてもスケールの大きいものだと感じました。自分もその関係の中の一人です。周りがどのような物を求めているのか意識しながら、自分も物の価値を決める一員であるのは、非常におもしろいことだと実感しました。

他の例では、私のお小遣いのことがあります。枝豆を1箱分完成させるたびに何円と決め、給料を貰っていました。自分が1時間かけて働いた分はこの枝豆2袋分なのか、などとしみじみ思いながら、これも自分では決められない私の働きの価値なのだと思います。特に私に文句はないのですが、この働きに対してこれは正当な賃金なのかと疑問に思うこともあります。一般的な基準がわからないし、そのお金で生計を立てているわけではないからです。しかし社会に出た場合、もっときちんと自身の働きの価値を考えなければならないのだろうと思いました。自分の給料は自分で決められるものではないので、もしそれが生活に支障をきたすほど少なければ、異議を唱えることも必要です。そのときに他の人が同じような状況でどれほど給料を貰っているのか、自分の働きにそれはふさわしいのかの判断が重要です。また、これは給料を決める人からも判断の難しいものだと思います。その人の働きがどれだけ仕事の役に立ったのかは量れないからです。アルバイトだと時給何円と書いてありますが、それが正しい判断なのか、常に考えなければわからないものでしょう。

自分で決める価値と他が決める価値について書いてきましたが、結論を言うと、価値を決めるのはとても難しいということです。価値は周りとの差で判断しますが、どのあたりまでを判断の基準にしたらいいのかは正確ではありません。また物を買うときも、それは正当な値段なのか考えなければいけません。今までの記憶や経験も必要です。世の中には非常に多くの価値が存在します。それを一つ一つ分析していくことはみんな常にしていますが、更に深くイメージすることは大切でしょう。なんでも安ければ、高ければ良いというものではなく、きちんと





それがどのようなものであるか把握し、正しい判断をすることが必要なのではないのでしょうか。これから社会人になるにあたり、一般的な価値観はかなり重要になると思います。更に視野を広めて、多くの情報を手に入れ、正しい決断をすることが大切な生き方だと思います。

